

# 野 球 雑 感

県 勢 統 計 係 糸 賀 寿

V9の栄光を誇るプロ野球界の名門巨人軍は、現在最下位に低迷し、このままでいくと球団創設以来最悪のシーズンに終わりそうです。多くのプロ野球ファンと同じく私もその変貌の早さには驚かされもし、失望させられた一人です。栄枯盛衰の理わりとはいいますが、不滅といわれたあの憎々しいジャイアンツが、一夜のうちに哀れな愛すべき姿に変身してしまったことは、アンチジャイアンツたる巨人ファンとしては、まったく物足りなく思われます。それに比べると、セ・リーグでは毎年お荷物とさえいわれていた広島カープの躍進ぶりには目をみはらせるものがあります。その粘り強いたくましさは熱狂的なカープ・ファンを十分満足させ、フロック的なものは何一つ感じさせません。

この盛衰の原因については世上いろいろと取り沙汰されているようですが、私も野球愛好者として少なからず関心をもって見ます。

昨シーズンまでのジャイアンツは、厳格な指導者のもとにプロ野球を代表する2大スター・プレーヤーを有し、その周囲にドラフト制以前に入団した球界のエリート連がとりまいていたわけです。このような配置の中でジャイアンツは組織としてよく機能し、他を寄せつけない強いチームでした。しかし当時の風評のようにゲームがドラマとして面白くなかったというのは、配役のすばらしい個性がいつの間にかチーム（組織）の中に埋没し、筋書きに素人受けのする意外な展開が少なく、観客の心に共感を与え得なかったからだだと思います。スター・プレーヤーを除くと没個性の集団を感じさせ、ゲームには強いがいつも優等生をみているようで、もう一つスタンドは楽しめなかったのだと思います。同じ様でも高校野球では、頭が下がるほどの真剣さと技術の未熟さ、それに独特の地域性が、観客をひきこむほどのドラマを作り上げているのです。人気がなくともよいはずのジャイアンツが、なぜにこれほど野球を独占するのか私にはわかりません。スター・プレーヤーとマスコミがその原因なのでしょう。

また、組織が継続的によく機能するにはそれを構成する人間が効率的に交代していかなければなりません。ましてスポーツにおいてはそのサイクルも短期間となるはずで、その後ドラフト制が採用されたとはいえ、ジャイアンツの選手の代謝はよく行われたとはいえ新しい芽が育ちませんでした。

このような中でファンの期待を一身に集めたかっていいクリーン・ベースボールが誕生したわけです。陽気なドラマティックな野球が成功していたら、どれほど楽しかったでしょう。しかしそれもスター監督登場のキャッ

チ・フリーズだけにおわり、内容はさわやかな敗け方もできず、つぎはぎだらけの気紛れ野球に終始してしまいました。来季はさわやか監督のもとに、大トレードでチームを一新し、ニュー・ジャイアンツとしてファンの前にダイナミック・ベースボールを展開してほしいと思います。ただクリーン・ベースボールの唯一のヒットは、どういふわけか全国津々浦々にいきわたっている巨人軍の権威を、ある程度打ち砕いてくれたことです。理由なく差別されている他球団よ、いまこそ奮起して大鵬に次いで巨人も過去のものとしようではないか！

一方広島カープの活躍はすばらしく、とくに外人監督を引き継いだあの若いリーダーは、みているだけでですがすがしい思いがします。弱小球団で不遇をかこっていた実力者たちが、理知的で誠実なヤング・リーダーのもとでプレーする様はまさしく滝を登る若鯉を感じさせるではありませんか。

最近職場の野球チームが目立ってふえてきたようです。見て楽しむ野球より実際にプレーしようということで、よい傾向だと思います。個人個人が野球というチームプレーを通してスポーツを楽しみ、有意な時をすごすことが目的かと思えます。しかし野球というのはただ単にゲームを消化するということでは少しも楽しいものでなく、楽しむためにはかなりの心がまえが必要なだと、強く感じます。お互いの弱点を補う思いやり、長所をひき出すための激励など、様々の協調性を持ち合わせた時に、チームが一つの組織として有機的に機能するのだと思います。そんな感触を得た喜びは計り知れないものがあると思われれます。また相手チームに対して闘志ある紳士であることは、野球に限らずどんなスポーツにもいえる最も基本的なことでもあります。技術は拙劣であってもこのような意志をもつ選手、そしてチームはきっとすばらしい野球を味っていることでしょう。

